

7月5日のウクライナ情報

安齋育郎

●「粉々に砕け散った」 仏の自走榴弾砲がロシア無人機に破壊される様子を英マスコミが報道(2023年7月4日)

英テレグラフ紙は、ロシア製無人機「ランセット」がウクライナ軍にとって極めて深刻な問題となっていると報じた。

テレグラフ紙は、「先日、ランセットは仏からウクライナに供与されたカエサル 155mm 自走榴弾砲を破壊した。巨大な榴弾砲が無人機の直接的な攻撃によって粉々に砕け散った」と報じている。

テレグラフ紙の記事には、専門家らはランセットの能力を賞賛しており、この使用拡大によりウクライナは戦線で一層の苦戦を強いられると警告を発していると書かれている。

『「自爆ドローン」の弾頭は使い捨てで、衝撃によって爆発する。巡航ミサイルや弾頭ミサイルよりはるかにコストは低い』テレグラフ紙はこうした帰結を結んでいる。

6月末、ロシア国防省が発表した動画では仏製カエサル 155mm 自走榴弾砲は、ロシアの特別軍事作戦ゾーンでロシアの無人機ランセットの攻撃から逃げようとして、高速道路で横転し、結局は攻撃を受けて破壊されていた。

これより前、仏の通信社もロシア軍は砲弾や無人機の量と質でウクライナ軍より優勢だと報じている。



●「戦場では役立たず」仏からウクライナ供与の AMX-10 の有効性を米退役軍人がバリュー(2023年7月4日)

仏がウクライナとの契約で供与した装輪装甲車は戦場では全く役に立たないことがはっきりした。米陸軍の退役将校スタニスラフ・クラピーヴニク氏がラジオ・スポーツニクに語った。

役立たずの兵器

クラピーヴニク氏は、西側諸国がウクライナ政権に供給している兵器は、軍のニーズを満たしていないと指摘している。特に仏が提供した、いわゆる車輪付き戦車はそうだった。

「仏は戦車を送るのではなく、105 ミリ口径の大砲付きの偵察用の装甲車を送ってきた…。マクロン仏大統領に、あなたは戦車を送ってはくれなかったと言ったら、向こうは大声で、送りましたよ。ただ、装輪タイプなだけです、と叫んだ。AMX-40 は戦車だが、ウクライナに送った AMX は偵察用の装輪装甲車だ。装甲は軽量で、(敵を)見つけに来て、帰ることはできるし、数回なら砲撃もできるが、戦闘

の真ただ中に出ていくことはできない。NATO の問題は戦車、装甲車の数が不十分なことだ」

クラピヴニク氏は、NATO 諸国の軍需産業にはウクライナの戦場ですでに敗北した装備と入れ替えることができる代替品を提供する能力がまだないと指摘している。

訓練時間が足りない

これより前に、AFP 通信の記事にウクライナ人軍人らが AMX-10RC をこき下ろした発言が掲載された。ウクライナ人らは AMX-10RC の装備は確かに見事だが、装甲があまりに軽量でギアボックスに問題があると指摘している。ギアボックスに問題が生じる理由について、ウクライナ人らは、おそらく未舗装道路で走行しているためだろうとしている。

また、仏で行われた数か月間のトレーニングも AMX-10RC のファンクションをものにするには不十分だったことが指摘された。



●米軍防空部隊が直面する人員不足と燃え尽き症候群＝マスコミ(2023 年 7 月 4 日)

米空軍の防空部隊は米国の世界的なプレゼンスが増大したために任務が増え、それを担う人員が不足し、兵士自身もセラピストの助けを必要としている。CNN が報じている。

「これは単純かつ純粋に算数の問題だ。米国の抱える任務は防空能力よりも大きい」ダン・カーブラー防空部隊軍曹はこう語っている。

ある上級将校は匿名を条件に、「任務過剰と人員不足に陥っている」と苦情を訴えた。

CNN は、「北朝鮮、中国、イラン、ロシアを含む敵対勢力を抑止する」ために米国防総省が配備した米軍部隊の中では、防空部隊は最も任務過剰な配置のひとつだと報じている。

CNNによれば、米軍は、空軍により多くの人間を惹きつけるために、すでに4万7500ドル(687万円以上)のボーナス支給に踏み切らざるを得なくなっている。

さらに、過労の結果、かかる燃え尽き症候群に対処するため、メンタルヘルス専門家が世界中の部隊に送られている。

防空部隊は米軍の中で派兵される頻度が最も高い部隊。太平洋や中東に駐留しているが、2022年は、NATO の東方面を守り、ウクライナ軍の訓練を支援するために欧州に緊急展開が行われた。



●「数分で壊滅」戦車「レオパルト」失ったウクライナに失望の声＝独紙(2023年7月3日)

供与された兵器を1カ月で失ったウクライナは、西側諸国の期待に応えることができなかった。独紙「Berliner Zeitung」の論説委員を務めるフランツ・ベッキ氏は、ウクライナ軍が反転攻勢開始からわずか3週間で、複数の独製戦車「レオパルト」を失ったと強調している。

ベッキ氏によると、ドイツのウクライナへの軍事支援は2022年、約20億ユーロ(3150億円)だったが、2023年は約55億ユーロ(8660億円)となった。2024年には約105億ユーロ(1兆6530億円)に達するとの観測もある。

また、ウクライナに供与された戦車「レオパルト2」は計54両に上る。ベッキ氏は、ウクライナの政権は損失を公表していないため、撃破された戦車の正確な数は明らかでないとしているが、最低でも「レオパルト2」の13パーセントは失ったと主張している。

米誌「フォーブス」のデータによると、6月8日の戦闘がウクライナ側に「高くついた」という。この日、ウクライナ軍は地雷原で「レオパルト2A6」14両中3両、重地雷除去車両「レオパルト2R」6両中3両を失った。同誌は、これらが数分で起こったのは明らかで、人的にも金銭的にも被害が大きかったと指摘している。

7月3日、ロシアのセルゲイ・ショイグ国防相は、ウクライナ軍が突破を試みる各戦線で、これまでにロシア軍が「レオパルト2」16両を撃破したと発表した。これはポーランドとポルトガルがウクライナに供与した「レオパルト2」の数にほぼ匹敵する。

破壊されたウクライナ軍の独製戦車の映像は、西側諸国で大きな反響を呼んだ。先月20日、ロシアではレオパルトを撃破した露軍兵士、アンドレイ・クラフツォフ氏は100万ルーブル(およそ163万円)の報奨金を得ている。



●マックス・ブルメンタール氏(The Grayzone 創設者)の国連での演説(投稿日: 2023年7月4日)

※安齋注: 2023年6月29日の国連安全保障理事会での証言。必見映像! “The Grayzone”はブルメンタール氏が設立したアメリカの左翼的ニュースサイトとブログ。とても早口の証言だが、日本語字幕があって分かりやすい。

この戦争に政治や金で繋がった人々がウクライナ人を戦場に押し出す。この戦争の本当の勝者はブリンケン国務長官のような人々。

こうして時系列で整理して並べると、いかに西側の主張に無理があるかよく分かる。(約14分)

<https://twitter.com/i/status/1675890494860304384>



●ジョン・ミアシャイマー教授の見解(2023年7月4日)

ジョン・ミアシャイマー教授はグレン・グリーンウォルドに対し、ロシア軍の圧倒的な砲兵力の優位性、制空権、そしてウクライナ軍の人員不足と訓練不足により、ウクライナ軍の反撃は多大な死傷者をもたらすだろうと警告している。

ミアシャイマー教授は、F-16 と ATACMS が戦争の流れを変えないと考える理由を詳しく説明する。同氏はまた、米国と NATO にはロシアとウクライナ間の現在の砲兵力格差に対処するための製造能力が欠けているとも言及している。

「この反撃は自殺行為だった…NATO が訓練した主力部隊は破壊された。そして実際、他の部隊も同様に破壊された。ウクライナ人には勝ち目はなかった。特に西側諸国は著しく無責任だったと思う」米国は、ウクライナ人にこの攻撃を開始するよう促す…

実際のところ、戦場で最も重要な武器である大砲に関しては、ウクライナ人はかなり不利な立場にある。ロシア軍は砲兵においておそらく 5 対 1、7 対 1、もしかしたら 10 対 1 のアドバンテージを持っており、戦いの王者である。

さらに、ロシアは制空権を握っており、ロシアは戦場のウクライナ側に空軍力を持ち込むことが認められている。つまり、ロシア人が大砲でウクライナ人を攻撃しているだけでなく、あらゆる種類の高性能爆弾で空からウクライナ人を攻撃し、攻撃部隊に甚大な損害を与えているのだ。

さらに、ウクライナ軍は十分な訓練を受けていない。大勢のウクライナ人をドイツや英国で数カ月訓練し、1940 年 5 月にドイツ軍がやったように電撃戦を仕掛けることを期待することはできない。それができる軍隊を育成するには何年もかかる。ウクライナ軍にはそのような訓練を受けていない。

そしてさらに、NATO はたった 9 旅団しか訓練しなかった、たった 9 旅団だった。ウクライナ軍は約 60 個旅団で構成されているが、そのうち NATO によって訓練を受けたのは 9 個だけだ。そして当然のことながら、これらの旅団は 6 月初旬の最初の攻撃でひどく切り刻まれた。したがって、ウクライナ人がロシアの守備を突破して、何らかの重要な勝利を収める可能性はないと思います。そしてその代わりに、ここで何が起こるかという、ウクライナ人は膨大な犠牲者を被ることになるだろう…

問題は、我々がウクライナ人の勝利を手助けできないことだ。F-16 が魔法の兵器であるという考えは、深刻な議論ではありません。いずれにせよ、我々は彼らにそれほど多くの F-16 を与えるつもりはない。私たちは彼らに第二層の F-16 を与えるつもりです。さらに、F-16 の操縦に十分な経験を積んで訓練し、迅速に戦闘に送り出せるパイロットもいない。

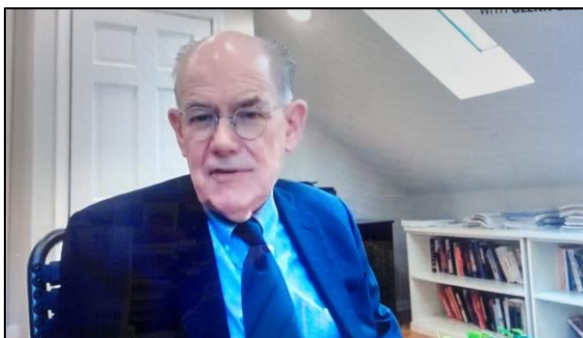
そして最も重要なことは、私の見解では、ロシアはほぼ世界で最も洗練された地上防空を持っているということです。ロシアは、我々がウクライナに供与した数機の F-16 を停止させるのにほとんど困難はないだろう。私たちがウクライナに供与しようとしている F-16 や ATACMS さえもが、形勢を変えるだろうという考えは、深刻な議論ではない...

実際のところ、ロシアとウクライナの間で存在している大砲の不均衡を是正するのに十分な大砲を生産する製造能力は我々にはありません。対照的に、ロシアは兵器に関しては大きな製造能力を持っており、砲弾を発射している。驚くほどのスピードで、製造能力がなければそれはできません。

そして、その機能を開発するには 1 ~ 2 年、場合によっては 3 年かかるでしょう。そしてその間、ウクライナ人は深刻な窮地に立たされている…ロシア人は大砲、さらに言えば戦車においてメジャーリーグのアドバンテージを持っているだけでなく、人口規模、つまり戦車の数においてもメジャーリーグのアドバンテージを持っている。潜在的な兵士。

さらに、彼らは空を制圧しており、航空戦力において多大な優位性を持っており、F-16 はそれを是正するつもりはありません。したがって、ウクライナがこの戦争に勝つ可能性はわかりません。彼らは運命にあると思います。私は、ウクライナ人は愚かにも、はるかに軍事力があり、したがって勝つであろう国との戦いを選んだと思います。

<https://twitter.com/i/status/1675929138346196992>



●ルカシェンコ大統領演説 ~ プーチンとルカシェンコ - これからの闘い - プリゴジン引き金に過ぎない(2023年6月27日)(日本語字幕)

この動画は、2023年6月27日、ベラルーシのルカシェンコ大統領の演説でのプリゴジンとの交渉、反乱の背景に関する部分のフルバージョンです。報道や SNS、YouTube 上で解説されているものは、同じ部分が多いと思います。切り抜かれている部分ではないところにもかなり重要な話があります。少し長い動画ですが、物語のように話していますので、この件の背景にご興味のある方にはご覧いただく価値があると思います。なぜ、プーチン、ルカシェンコ両大統領はプリゴジンとワグネルを罪に問わなかったのか？最後までご視聴いただければ幸いです。

<https://youtu.be/DcPBl5pkb7Q> (31分18秒)



●風刺画:[ウクライナはフランスになれなかったが、フランスはウクライナになった]
(2023年7月4日)

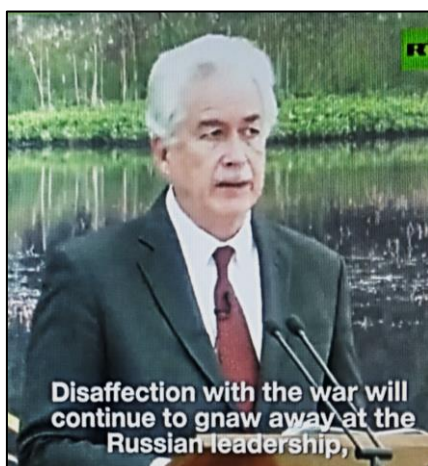


●CIA 長官バーズの弁(2023年7月4日)

CIA 長官バーズはウ紛争によってモスクワの内部不和が高まりロシア弱体化の歴史的な機会を与えられたと語った。

「戦争への不満は国家のプロパガンダと弾圧の下でロシアの指導者をむしばみ続けるだろう」

「その不満は我々CIA にとって一世一代のチャンスを生み出す。それを無駄にする訳にはいかない」



●ウクライナ特殊部隊兵の告白(2023年7月3日)

男は自分のしたことを告白した。「ウクライナの特特殊部隊にスカウトされた。その後、カラティストと

名乗るようになった」と、FSB が公開したビデオで語った。男はウクライナで特殊訓練を受けたことも認めた。

FSB が阻止したアクションノフの車列に対するウクライナの保安庁による試みは、今回が初めてではない。



●ウクライナでの強制動員(2023年6月28日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は国民を力づくで前線に駆り立てないと約束したが、ここ数週間の総動員は同大統領が有権者を欺いていたことを示している。男性たちはウクライナの都市の路上で取り押さえられ、パトカーに詰め込まれる。(2本続きです)

<https://twitter.com/i/status/1673728690554015744>

<https://twitter.com/i/status/1673729074416734208>

